

# 調査月報

## 【通信機器】悪化するわが国ネットワーク機器メーカーの事業環境

ネットワーク機器市場が底入れしつつある。ネットワーク機器とは、さまざまな通信網の接続や制御を行う通信機器全般のことで、代表的な製品としては、通信網を流れる情報を伝送する LAN スイッチなどがある。世界市場は、2001 年の IT バブル崩壊以降、漸減傾向を辿ってきたが、ここに来て持ち直しに転じている（図）。

これは、欧米を中心とした市場の回復が大きい。欧米市場は、IT バブル崩壊以降、通信業者が投資を大幅に手控えた結果、落ち込みを強いられてきたが、ここに来て通信業者の業績が底入れしつつあるうえ、ユーザーの更新需要も徐々にでてきたことから、持ち直しに転じている模様である。今後も、世界市場は、欧米市場を中心とする更新需要の伸びに加えて、後発国における新規需要の高まりもあって回復傾向が一段と強まる可能性が強い。

もっとも、わが国メーカーについてみると、こうした流れに充分に乗れそうにない。まず、主力の国内市場が伸び悩む公算が大きい。わが国メーカーは、内外で事業を展開しているが、過半を占める国内市場の先行きをみると、たしかに IP 電話の普及本格化に伴う需要押し上げ効果はあろう。しかしながら、ここ数年、政府の e-Japan 戦略推進を受けて公共機関を中心にネットワーク機器の更新を前倒しで進めてきた反動で、足許ではやや息切れ感がではじめており、全体としては横這いが精々とみられる。さらに、メーカー間の競争も強まりそうだ。

斯界では、米国・Cisco Systems が、高い技術力を梃子に通信業者など大手ユーザー向けを主体に約 6 割もの国内シェアを握っており、わが国メーカーは、販売先や価格などで差異化を図りながら事業展開し、中小ユーザー向けで存在感を発揮している。ただ、このところ、ユーザーの間では、規模の大小に拘わらず、高速大容量化した機器や、セキュリティ対応の先端機器に対するニーズが強まっており、同製品を得意とする Cisco Systems は戦線を拡大しやすい状況にある。むろん、中小ユーザーは、デスク周りの末端機器が中心とあって幅広い品揃えが欠かせない一方、Cisco Systems はスケールメリットを狙って品種を絞った製品展開となっているため、同社のシェア拡大には自ずと限界はあるが、競争激化による価格低下でわが国メーカーは収益悪化を強いられる公算が大きい。

こうしてみると、世界市場の回復とは裏腹に、わが国メーカーは、冴えない展開を辿りそうだ。（H16.12.24 平野 剛士）

図：ネットワーク機器（LAN スイッチ）の世界出荷金額の推移

